

## 平成 28 年度 国立大雪青少年交流の家 開所 50 周年記念事業

### 「全道高齢者大学移動学園祭」事業報告書

#### 1 事業実施の背景

本事業は、平成 28 年 10 月 16 日に迎える開所 50 周年の記念事業の一つとして、計画したものである。

交流の家は、昭和 41 年 10 月の開所当初は、青年団体の利用が最も多くを占めていた。まさに、そのころ青年であった現在の「高齢者」が、50 周年の区切りに、当時は懐かしみながら、当施設を利用して学習する機会を設けるという「50 周年の記念」事業として企画したものである。

高齢者の宿泊事業は、体調管理やプログラム面で考慮すべきことが多く、近隣の市町村高齢者大学を中心に、修学旅行のような形での実施ができないか、高齢者大学を主管する行政機関に働きかけ、実施の検討を進めてきた。

#### 2 事業趣旨

開所当初に青年として利用者の中心の世代であった「高齢者」が懐かしみながら学習する機会を提供するとともに、各町の高齢者大学の活動を交流し、それぞれの活動の活性化を図る。

#### 3 主催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立大雪青少年交流の家

#### 4 事業概要

- ・期 日 平成 28 年 7 月 4 日（月）～ 5 日（火）（1 泊 2 日）
- ・会 場 国立大雪青少年交流の家
- ・対 象 全道の高齢者大学等に所属している高齢者
  
- ・参加期待数 200 名
- ・協 力 北海道大学落語研究会  
美瑛町観光協会

#### 5 広報

各市町村における高齢者大学を主管している行政機関及び財団法人北海道老人クラブ連合会へ参加の広報を行った。

#### 6 参加者人員・類型

参加者 1 日目：179 名 2 日目：92 名

内訳：1 日目：高齢者 169 名（美瑛町 40 名，上川町 37 名，南富良野町 21 名，下川町 18 名，上富良野町 16 名，鷹栖町 16 名，東神楽町 10 名，中富良野町 5 名，愛別町 4 名，当麻町 2 名），教育委員会担当者 10 名

2 日目：高齢者 85 名（南富良野町 21 名，下川町 18 名，上富良野町 9 名，鷹栖町 16 名，東神楽町 10 名，中富良野町 5 名，愛別町 4 名，当麻町 2 名），教育委員会担当者 7 名

## 7 事業日程・内容

### (1) 日程

		11:30	12:00	13:30		15:30	16:30	18:30	20:00	22:00
7/4 (月)		受付	休憩・昼食	開 会 式	芸能発表 (合唱・演劇等)	落語鑑賞	休憩・入浴	夕食・懇親会	休憩	就 寝
	6:30	9:00				12:00	13:00			
7/5 (火)	さわやかタイム・ 朝食・清掃	Aコース:パークゴルフ大会 Bコース:丘のまち写真撮影会(バスで周遊) Cコース:施設周辺の自然観察				昼食	解散			

### (2) 概要・運営のポイント

本施設は、バリアフリーに対応していないことから、事前に足が非常に不自由な高齢者の状況を聞き、宿舎や下駄箱などの対応について、各町の担当者と連絡を密にした。また、体調等により、当日でもプログラムの変更ができるように柔軟に対応した。

### (3) 各プログラム内容

#### ① 芸能発表(120分)

開講式の後、6町の芸能発表を実施した。合唱に力を入れている町が多く、アンコールの場面も場面も見られ、盛会となった。南富良野町は、スライドを見せながらの寸劇に取り組み、他の町からも「ぜひやってみよう」などの声がかかるなど、学習内容の交流ができた。

上川管内では、年に一度、同様の交流を実施しており、大勢の前で発表する機会が増えたとの声も聞かれた。



#### ② 落語鑑賞(60分)【出演：北海道大学落語研究会】

北海道大学落語研究会の学生が、高齢者のために、ボランティアで落語を披露してくれた。日頃、生で落語を見る機会があまりないため、参加者も非常に楽しんで、落語を鑑賞していた。

落語に必要な用具類も落語研究会が準備し、2人で約50分の演目を実施してくれた。高齢者の楽しみと文化活動への意欲付けとして効果的なプログラムとなった。



#### ③ 夕食・懇親会(90分)

交流が主たる目的であることから、なるべく別の町の高齢者との交流が進むように席を配置し、少しのアルコールを提供することで、円滑に交流が進んでいた。

交流会途中では、各町における高齢者大学の学習活動の様子を高齢者が中心に紹介した。他町の高齢者大学の様子に刺激を受けた高齢者も多かったようで、「参加者同士の交流」「高齢者大学の学習内容の交流」の両方が行われ、楽しみながら情報の交流を図ることができた。



④ Aコース「パークゴルフ大会」(180分)

交流の家の敷地内にあるコースで、大会を実施した。4名程度のグループでラウンドし、それぞれに記録を補佐する人員を配置した。22名が参加し、表彰式で1位～3位とブービー賞を表彰した。

坂が多い難コースであったが、普段からパークゴルフに取り組んでいる腕自慢が参加し、楽しんでプレーしていた。



⑤ Bコース「丘のまち写真撮影会」(180分)

【ガイド：美瑛町観光協会ボランティアガイド 京屋孝治 氏】

美瑛町観光協会のボランティアガイドに協力していただき、美瑛町内の「四季彩の丘」「新栄の丘」「青い池」「白ひげの滝」を交流の家のバスで周遊した。晴天に恵まれ、参加者24名は、美瑛の美しい風景を楽しんだ。

青い池は若干の歩行が必要であったが、各自無理せず参加していた。緊急車両を後続させ、万が一のための対策を立てていたが、何事もなくプログラムを実施することができた。



⑥ Cコース「施設周辺の自然観察」(180分)

【講師 国立大雪青少年交流の家所長 阿部豊】

施設周辺を見て回る予定であったが、参加者の中には、足が不自由な方も多く、また、時節柄、施設周辺に主な植物が少ない時期でもあり、阿部所長が大雪山系で撮影した植物のスライドショーを実施した。

参加者39名の中には、登山歴が長い方もいて、「芦別岳で見た」など、興味・関心が高い様子うかがえた。大雪青少年交流の家らしいプログラムに、参加者も楽しんで学びを深めていた。



8 高齢者大学事務担当者アンケートから

問1. 事業に参加してあなたが感じたことをお答えください。

項目	評価	回答数	評価	回答数	評価	回答数	評価	回答数
①事業をとおしていかがでしたか	4	3	3	3	2	0	1	0
自由記述 ・初めての参加で不安がいっぱいでした。								
②この事業のプログラムはいかがでしたか	4	4	3	2	2	0	1	0
自由記述 ・各地区の懇親会で宴会だけではなく、もっと体を動かすコミュニケーションがほしい。 ・参加者は十分満足していました。								
③この事業の運営はいかがでしたか	4	3	3	3	2	0	1	0
自由記述 ・体育館・講堂は寒かった。								
④職員の対応はいかがでしたか	4	6	3	0	2	0	1	0
自由記述 ・良好 ・どなたも親切に適切な対応をしていただきました。								

【担当者から】

●事業全体としては、概ね満足の評価をいただいた。事務局対象のアンケートだが、職員の丁寧な対応が評価されている。

問2. 事業に参加する以前のことについてお答えください。

- (1) これまでに高齢者以外の者も含めて、大雪青少年交流の家の事業に参加したことはありますか。  
・初めて(4) ・これまでに(ある2人)
- (2) この事業をどのようにして知りましたか。(複数回答 可)  
・チラシを見て(2) ・人から紹介されて(2) ・その他(大雪職員から 2、高齢者学級から 2)
- (3) この事業に参加された理由はどれでしょう。(複数回答 可)  
・内容に興味があって(3) ・人に誘われて(3) ・ネットワークを広げるため(1) ・その他(仲間と話し合っ)

【担当者から】

●町教委の事務局としては、大雪の事業に参加したことがない人が多い。事業の評価が高くなれば、連携事業は今後の利用促進に効果的かもしれない。  
●広報は、電話等の連絡が効果的。チラシだけで知ったところも1件あった。

問3. 今後、交流の家を利用しようと思えますか。また、利用するにあたり、どのようなことが重要だと思われますか。ご意見やお気づきの点がありましたらお書きください。

- ・今回は団体で申し込みましたが、個人参加もできますか。  
・機会があれば利用したいと思います。  
・「家」側の営業努力が十分感じられます。  
・高齢者にはやや不便な面があるが、仕方ないことです。  
・特にありません。

問4. プログラムについてお答えください。

項目	評価	回答数	評価	回答数	評価	回答数	評価	回答数
①芸能発表	4	3	3	3	2	0	1	0
自由記述 ・「管内学びの集い」と重複する内容だが、参加者が選択できる。								
②落語鑑賞	4	4	3	1	2	0	1	0
③懇親会	4	3	3	1	2	0	1	0
自由記述 ・不参加								
④選択プログラム	4	3	3	2	2	0	1	0

【担当者から】

●「管内学びの集い」という集いがあることが分かった。内容としては、おおむね評価いただいた。

【自由に感想をお書きください】

- ・高齢者対象のため、着替え部屋(控室)がもう少し近い方がよかったという要望があった。  
・バリアフリー化  
・講堂の時計が見にくかった。どこからでも確認できる位置にしたらどうか。

【担当者から】

●控室は、武道館と体育館にすべきだった。移動を少なくすることを最優先に考える必要がある。

## 9 事業の成果

50周年記念事業として実施した目的については、概ね達成できた。かつての青年たちが交流の家を大切に思う気持ちが感じられる場面もあり、彼ら（利用者）がいてこそ交流の家の存在意義があることを再認識し、そうした人々へ感謝の気持ちをもつことが50周年の記念に重要なことである。

また、高齢者の学習活動への意欲付けや、交流をとおして今後の活動への変容が予想される。今後の大雪と高齢者大学の関わり（出前事業や施設利用）が出てくることも期待できることは、事業の成果と言える

## 10 事業の課題

### ①施設のバリアフリー化

高齢者が継続的に集まるためには、施設のバリアフリー化は不可欠な要素である。

### ②上川管内では高齢者交流会を実施している

すでに、上川管内の高齢者大学の交流会を実施していることから、大雪が事業を進める緊急性はない。

### ③事業趣旨・目的の設定

今回は、50周年記念事業としての趣旨を設定し、その視点からは事業に一定程度の成果があったといえるが、継続していくには、新たに目的を設定する必要がある。

本事業は上川管内で既に同様の事業が実施されており、交流の家として、今後の高齢社会を踏まえ、高齢者への出前事業や家族での利用、または、高齢者大学の修学旅行の受け入れなど、利用者への研修支援として考えていくことが望ましい。